

平成21年度 若年者ブロック会議報告

月	参加機関数	事例検討	検討内容	意見・課題
	参加者数 担当機関名			
4	13機関 23人	「病識を持たない50歳代の患者の地域調整」	生きがい支援 病院と地域の連携方法・情報交換	本人の転院という訴えのみに振り回されない 本人の思いをきちんと聞き取り受け止める 生きがい・楽しみ等も視野入れた関わり 地域のインフォーマルサービス等の活用
	片倉病院			
5	18機関 22人	「発達障害者の就労支援について」	本人の意欲を引き出す支援 支援者としての根回し等を含めた調整能力 家庭内の人間関係への介入	就労意欲を引き出す支援 企業への根回し・本人と企業間の調整等が必要 事例の背景や生活・家族関係全体を見た支援が必要 支援機関同士の協力が必要 就労移行支援の2年間で、就労につなぐ難しさ
	セルプ岡の辻			
6	20機関 30人	「支援の必要性を感じず、サービスや支援者の受け入れが悪い精神・知的障害者支援について」	必要な支援の見極めと導入・継続 1人で抱え込まない支援 行政の役割	本人の希望のみでなく支援者が本人や本人を取り巻く 状況、病状・生活面等全体を見て判断し、必要な支援が 切れずに本人が安定した生活を維持できるようにしてい くことが必要 相談支援担当者のバックアップ体制も必要。
	神原苑			
7	15機関 23人	「当事者ニーズによるソーシャル・インクルージョンについて考える。」	障害者の余暇支援	障害者団体のみではなく、地域参加型の余暇活動の開拓
	ぴあ南風			
8	12機関 18人	「1人暮らしの精神障害者との関わりについて」	障害者自立支援法の想定外のケース 本人との距離のとり方 支援者間のキーパーソン	本人の訴えのみに振り回されず、適度な距離を支援者が 取れる キーパーソンを中心に関係の整理とプランの建て直し
	生活支援センターふなき			
9	16機関 21人	「母子家庭で母親に問題が発生した際、子供さんは？？」	保護者不在時の子供の養育 子供の措置時の対応	こども福祉課や児童相談所の役割と動きが 支援機関、医療機関に周知されていない
	宇部市医師会			

月	参加機関数	事例検討	検討内容	意見・課題
	参加者数			
	担当機関名			
10	13機関 18人	「就学に向けた親子への支援について」	就学支援 就学時の情報共有 支援者間のキーパーソン	就学後の保護者支援 学校との連携
	ぷりずむ			
11	12機関 18人	「重症心身障害児施設が抱える課題について」	在院年数の長期化 病院と地域の連携方法 地域資源・情報の提供 NICUからの退院時からの支援	地域移行に関する情報が施設に届いていない 施設と地域の情報共有、連携体制作りができていない。 NICUからの退院時の連絡調整や支援のあり方
	山口宇部医療センター			
12	12機関 18人	「総合支援学校における問題行動発生時の生徒・保護者への支援と関係機関との連携について」	本人の問題行動と家庭・保護者との関係性 家庭を巻き込んだ支援 学校と地域との連携	卒業後の継続支援と地域へのつながりが必要 本人支援のみでなく、保護者支援の必要性 発達障害がベースにあると考えられる場合の対応
	宇部総合支援学校			
1	280人	障害支援者交流の集い 『ちょっとと気になる(発達障害)子・人の支援』	発達障害についての基礎知識 地域での支援の現状と課題	発達障害についての周知・啓発 当事者・家族・関係機関・地域との連携 切れ目ない支援体制
	障害福祉課			
2	18機関 23人	「更生施設入所者で帰宅願望が強い知的障害者の支援について」	精神症状が強い入所者への対応について 保護者の高齢化・体調不良に伴う家庭状況変化への対応	本人の精神状態・服薬調整のみでなくVPシャント術後32年経過。脳外科での検査が必要 成年後見制度を利用すべき
	うべくるみ園			
3	13機関 21人	「精神疾患のある母親の支援について」	家庭内の養育能力・支援方法 施設から家庭に戻る場合について	施設・保育園・行政等の関係機関の連携が大切 子供の安全確保
	健康推進課	「支援者による情報共有・連携が不十分であった事例」(報告)	情報共有と連携 精神疾患患者への内科疾患への配慮	指定相談支援員の役割の周知不足 個別支援会議のあり方・開催方法について